

家具デザイナー列伝 (1)

森 仁史*

明治維新以来、日本はあらゆる分野で欧化を旨とする近代化を図ろうとしてきた。家具も例外ではなく、洋風の生活空間に相応しい家具が求められた。最初は模倣から入り、次第に独自のデザインが問題となってくる。日本の工芸は世界的に見ても豊かな資産を実らせていたので、この伝統との相克はいつもデザイナーにとって課題であり続けた。この中から、6人のデザイナーを選んでその作品や時代背景を考えてみることにする。

(1) 武田五一 (1872~1938年)



武田は東京帝国大学工科大学（現東京大学工学部）建築学科を卒業した後、1901~03年ヨーロッパに留学した。フランス、イギリスを中心にイタリア、ハンガリーを巡歴し、アメリカ経由で帰国した。すでに一通りの建築教育を修得した武田であったが、見聞きしたうちでは、開催中のグラスゴー博覧会で接したマッキントッシュ・グループの出品作に心が動いた。留学中の「英国国民図案懸賞競技出品作品」（1902年、写真1）は皇后賞を受賞し、武田がイギリス人のなかでも充分通用

するデザイン力を持っていたことを証明している。

帰国後1908年に「福島行信邸」〔写真2・3〕を完成させ、一躍セセッションの旗手として時代の寵児となった。室内の壁には絵画やレリーフが掛けられ、各処に彫刻が置いてある。福島のアート愛好熱を満足させるためには、門扉から家具や照明器具などに至る幅広くきめ細かな設計力が必要だった。武田にはこうした力量があり、総合芸術的な空間構成を得意とした。球技室や洗面台の白く塗られた作り付け家具や門柱の照明はまだ殆どマッキントッシュを写している。「芝川邸」（1912年）では、この感覚はもっと洗練され、武田独自のものになっている。「椅子」や「花置台」〔写真4・5〕の縦に長く伸びた透かし彫りのモチーフはまだマッキントッシュの影響を感じさせるが、琳派に通じる優雅なシルエットを見せている。

我が国最初の本格的洋式宮殿の赤坂東宮御所（1910年）の家具はフランスから輸入されたが、パリ駐仏大使館（1908年）は三越の林幸平が横河民輔、久保田米僊の協力のもとで和洋折衷の室内装飾を完成させた。1910年代の東京市内では和家具職人1500~2000人に対して洋家具商は120~130軒だったという。代表的な洋家具商杉田屋商店は官公庁が顧客であり、その家具はまだ和洋折衷か西欧歴史主義様式の写しであった。代表的な洋式家具である曲木椅子製造では、1906年に東京日暮里で、1911年には湯沢町で秋田木工が創業し、政府も1909年には全面輸入禁止しその保護に乗り出した。明治末にやっと、家具の設計意図とそれを実現できる加工技術が生まれようとしていた。

武田の場合、伝統と近代との融合が「求道会館」（1915年、文京区に現存）と名づけられた仏教団体の布教施設に見られる。「ベンチ」〔写真6〕は背もたれから肘掛へと平行した縦線が並ぶところ

* 松戸市教育委員会

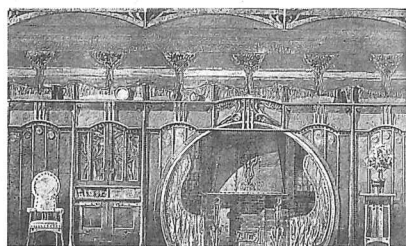


写真1 英国国民図案懸賞競技
出品作品



写真2 福島行信邸

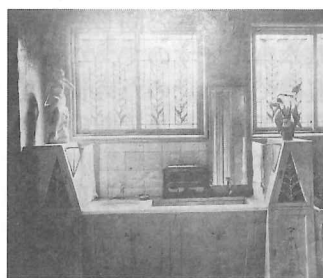


写真3 福島行信邸



写真4 芝川邸

はまだマッキントッシュ風だが、畳座敷と襖障子をそのまま椅子に移したかのようなデザインである。そうした個性的表現は「山口県庁」(1916年)で一層鮮明になる。「傘立て」[写真7]や衝立を飾る木象嵌で描き出されたモチーフは和でも洋でもなく、もはや比較対照が考えにくい。公共建築にありふれた洋家具としての機能を飛び越して、見るものを魅了する。

1920年代には、武田は自己の感覚を自在に形にする余裕すら生まれる。個人住宅のための「鏡付帽子掛」(1921年)は全くどの様式にもとらわれていない。山口県庁の厳しさよりずっと機能性に歩み寄っているのにもかかわらず、より個性的になっている。

さらに「西尾邸離れ」(1925年、現在修復工事中)では、洋風の広間の天井と腰壁に茶室などに多用される伝統技法の綱代や葦簀天井が用いられ、ヴェランダの軒裏は数奇屋風になっている。武田は

和風の要素を洋風建築へ融合させようとし、彼の手腕は不思議に落ち着いた空間を演出している。「家具」[写真8]も仔細にみると、寺院建築風な曲面があちこちにアレンジされて、洋家具でありながら和風の趣きを醸している。

後半生の代表作「旧東方文化学院京都研究所」(1930年、現京都大学人文科学研究所)では、スパニッシュ・スタイルを基本としながら、各所に散りばめたモチーフによって東方文化の匂いを漂わせている。それは福山藩士の子として育った武田の明治教養人らしさの片鱗なのかもしれない。ただし、図書室内の吹き抜けとそこに手摺と一体に設えられた簡素なブラウジングデスクは、かつて若き武田が感銘を受けたグラスゴー美術学校の図書室を髣髴とさせて微笑ましい。あたかもこの建物の心臓部に自らのオマージュを埋め込んだかのようなのである。

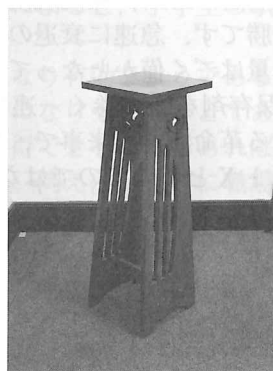


写真5 芝川邸



写真6 求道会館



写真7 山口県庁



写真8 西尾邸

目 次

[巻 頭 言]

- 今一度、「消費が生産を生む」を考える有馬孝禮… 1

[総 説]

- 地球温暖化対策としての木材利用松本光朗… 2

地球温暖化対策としては森林の炭素吸収機能が注目されるが、炭素蓄積機能や化石燃料代替機能を持つ木材の役割も大きい。京都議定書では木材の蓄積機能こそ評価されないものの、より重要な代替機能は正当に評価される。森林と木材を関連付けた循環利用により、排出削減と吸収増加という両面からの効果的な温暖化対策となる。

- 木材利用における環境影響評価について恒次祐子… 8

本稿では、木材利用が「なぜ」「どれぐらい」地球環境の保全、とくに地球温暖化の防止に役立つのか、それを「どのように」定量的に行うことが出来るかをまとめた。木材が「地球にやさしい」というイメージは、かなり普及してきていると思われるが、今後とくに「どれぐらい」という定量的評価に取り組んでいくことで、木材利用推進をより説得力を持ってアピールすることが出来るようになる。

[研 究]

- ジュート繊維とポリプロピレン繊維の混合添加による石膏パーティクルボードの性能改善

.....古野 毅, 原 千晴, 加藤定信…13

ジュート繊維と PP 繊維の 2 種類の強化繊維を混合添加することによって石膏パーティクルボードを製造し、繊維長および添加率や添加比がボードの物理的力学的性質に及ぼす影響について検討した。繊維長 3 mm の繊維を添加率 6 %, 同量前後で混合添加すると、それぞれの単独繊維を添加したボードよりも高い性能の改善が得られることがわかった。

- 新築住宅における揮発性有機化合物 (VOC) の気中濃度

—ホルムアルデヒドおよびテルペン類とその他の化学物質濃度との相関—

.....松田俊一, 寺村明憲, 辻 恭子, 原田裕久, 竹村彰夫, 小野拓邦…20

2002年11月から2004年1月にかけて新築未入居の戸建て住宅31棟についてアルデヒド・ケトン類、脂肪族炭化水素、テルペン類等の室内気中濃度を測定した。 α -ピネン、酢酸エチル、アセトンなど厚生労働省の室内濃度指針値物質以外で高濃度を示す化学物質がいくつか確認された。また、 α -ピネン気中濃度と β -ピネン、リモネン、ヘキサアルデヒド、アセトアルデヒド気中濃度との間にそれぞれ相関関係が確認された。

[内外情報]

- 第54回日本木材学会大会研究発表の動向27

- 平成16年(2004年)新潟県中越地震における木造建物の被害調査神谷文夫, 鈴木憲太郎, 杉本健一, 青木謙治…33

[連 載]

- 内外樹木のいろいろ (147) コバノブラッシノキ属の樹木 (その5)平井信二…39

- 木造建築の未来 (2) 免震技術により地震時の安全な構造と空間を確保する飯場正紀…45

- デザイン 家具デザイナー列伝 (1)森 仁史…48

[そ の 他]

- 木うら木おもて50

- 編集後記52

家具デザイナー列伝 (2)

森 仁史*

(2) 森谷延雄 (1893~1927年)

森谷延雄は1915年蔵前の東京高等工業学校工業図案科を卒業し、清水組設計部に入社した。ここで技師長田辺淳吉の薫陶を受け、インテリア設計に従事した。森谷は在学中から農商務省展に出品するほど早熟で、3年生の夏には奈良で寺社の建築装飾の実地調査に根を詰め、その成果を鴈堂というちょっと古風な筆名で『建築画報』に連載した。この頃の彼の関心と作風は日本の伝統的な様式研究とそれに基づく現代的解釈という一種の新古典主義と呼べるようなものであった。それは農展入選作《和洋折衷衣装箆笥図案》〔第1図〕にもよく表れている。しかし、上司の田辺は東大工学部を卒業し留学体験もある西洋建築に造詣の深い建築家であった。ちょうど森谷が入社した頃に、建築界は明治初期からの西欧技術の学習と模倣から離れ、徐々に日本の独自色を求め始めていた。

ここで森谷がインテリアを手掛けたうちの代表作というべきは晩香廬と誠之堂（ともに1917年作、現存）で、ともに田辺設計である。いずれも渋沢栄一の喜寿を記念して建てられたもので、前者は飛鳥山の渋沢邸の一角に建てられた小集会施設であり、後者は第一銀行保養施設内に設けられた建物である。誠之堂はW.モリスのレッドハウスを写しており、カントリーハウス風の趣から郊外生活が醸すゆとりと落ち着きをたたえている。田辺は外壁に煉瓦で「喜寿」と描き、森谷は論語に題材をとった人物像をステンドグラスに表している。田辺は焼き物好きな趣味人でもあり、ともに洋風の建物に東洋的な主題を溶け込ませることに手腕を発揮したといえる。

その後、森谷は芝浦に新設される東京高等工芸

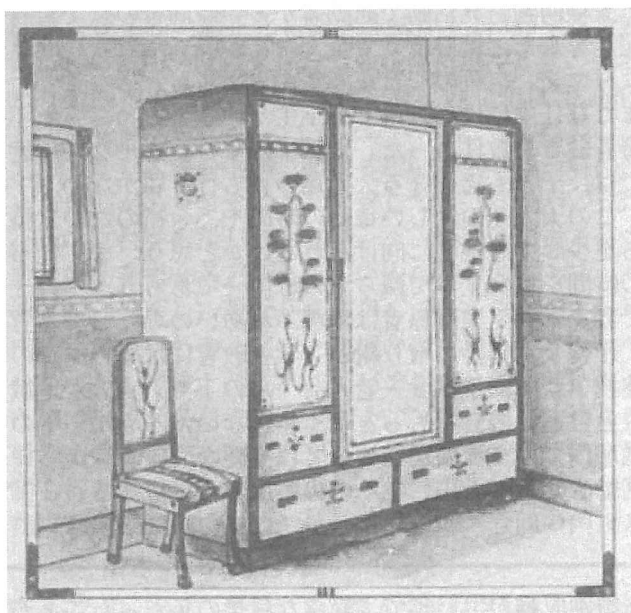
学校教授に抜擢され、その準備のため1920年10月~1922年6月に欧米に派遣され、イギリスには7ヶ月間滞在し、次いでドイツ、オーストリア、北欧からアメリカを巡った。このとき、森谷が目にしたうちで強く影響を受けたのは、家具における表現主義表現と社会福祉政策としての住宅設計であった。前者は国民美術協会展（1925年）〔第2図、第3図〕出品作に表れ、後者は標準家具メッセ（1923年）、趣味と実用の新案家具展（1926年）での設計に表れている。森谷は本質的に誌的情感の豊かな人物であり、そうした志向ゆえに彼を新古典主義、ロマン主義から表現主義へと歩ませたのだといえる。彼が家具をつくるときには単に装飾だけではなく、その造形や色彩に思いを吹き込まずにはいられない資質だったといえよう。だから日本でも1920年代に昂揚したアヴァンギャルドの動きに呼応して、生命感溢れる造形へと自らを駆り立てたのだった。同時に、こうした性向は森谷の作家性のなさしめるところであり、家具を通じた個性的表現に自信があったともいえるだろう。

しかし、震災復興の波頭は生活改善へと広がり、洋風の生活とそれに相応しい家具が広く求められ始めた。そこで森谷は、「私達に最も密接なる関係にある家具と云ふ立派な応用美術品は美と生活とを一如に結びつけたものでなくてはならず置かれた室内が美しい詩を物語ってくれる程度のものであって欲しい」と考えて、1927年に木のめ舎を結成する。ここに至って、二つの志向はひとつに溶け合うことができた。「(家具は高い)と云ふ言葉から離れて何処迄も一般民衆の味方となって同人の作品をお分ちしたいのが主なる目的で御座います」と決意を語っている。その旗揚げの展覧会が1927年4月9日から丸の内丸菱で始まったが、森谷はその4日前に急逝してしまった。この出品

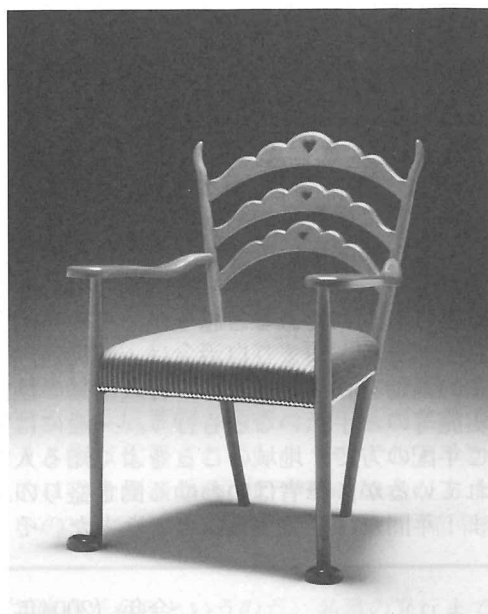
* 松戸市教育委員会

作のうち唯一今日まで残ったのが《側書架》〔第4図〕で、殆ど直材だけで構成され、僅かに側面に墨で描かれたX形が表現主義の影を宿してい

る。その表現の変遷といい、作品の質の高さといい、まさに日本の1920年代を駆け抜けた生涯だった。



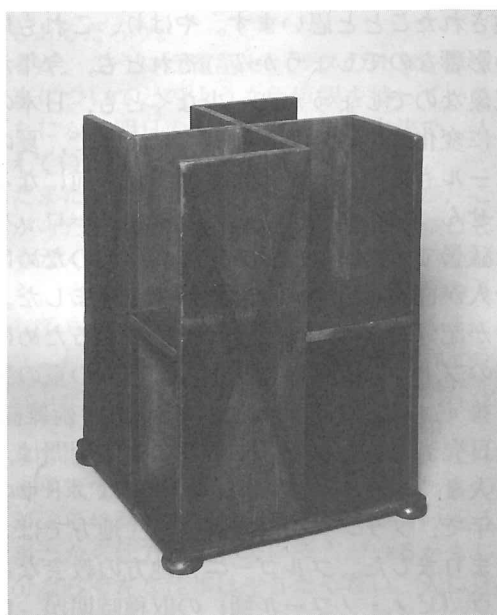
第1図 《和洋折衷衣装箆笥図案》(1913年)



第2図 《朱の食堂椅子》(1925年)



第3図 《小さき室内美術》(1926年)



第4図 《側書架》(1927年)

目 次

〔巻頭言〕

合板製造業と国産材丸太 ―木材資源の有効利用―井上篤博…53

〔総 説〕

パーク堆肥を用いた畦畔緑化資材の開発高橋理平, 水口吉則…54

パーク堆肥に緑化植物の種子を混合し, 高齢者でも容易に畦畔の緑化ができる点播用の緑化資材を開発した。緑化資材の基材として用いるパーク堆肥の適正を水分量, 生育阻害物質である全水溶性フェノール成分量の分析や発芽試験から検討し, また, 試作した緑化資材で現場試験を実施したので, その概要を紹介する。

木材の形成機構船田 良…59

木材の量や質は, 樹幹の形成層細胞の分裂活動と形成層由来の二次木部細胞の形態形成や細胞壁構築過程により直接制御される。本稿では, 木材の形成機構に関する解剖学や細胞生物学的手法を用いた研究成果について概説する。

〔研 究〕

カラマツ接着重ね梁の製造と曲げ強度性能吉田孝久, 伊東嘉文, 橋爪丈夫…65

カラマツ間伐材から得られた無背割り心持ち正角材(エレメント)を, 割れの抑制や乾燥時間短縮の点から有効とされる高温セット法により人工乾燥し, これらを2本重ね合わせた接着重ね梁を作製した。この接着重ね梁について, エレメントの組合せがその曲げ強度性能に与える影響について検討した。

〔資 料〕

木質液化処理物による建設発生木材の再資源化栗本康司, 山内秀文, 佐々木貴信…70

使用済みコンクリート型枠用合板や道路工事等に伴って排出される伐根材などの「建設発生木材」を再資源化し, 利活用する手法について検討した。これら建設発生木材は, 機械的な破碎処理により木材-ウレタン樹脂複合体の骨材として利用した。また粉碎により微粉化した部位は, 液化処理し骨材同士を接着する結着剤に利用した。試作した複合体は, 力学性能よりも低密度と多孔性を生かし, 法面の防草資材や緑化基盤材など土木用資材としての利用が望ましいと考えられた。

〔内外情報〕

(社)日本木材加工技術協会 第22回年次大会横地秀行…75

木製梱包材の輸出検疫に関する最近の動向古茶武男…81

〔連 載〕

内外樹木のいろいろ(148) レンガス属の樹木(その1)平井信二…84

木造建築の未来(3) 構造用木質建材のこれから林 知行…89

Now & New ―新技術・新商品紹介― 「ステイブルソー」.....兼房株式会社…92

デザイン 家具デザイナー列伝(2)森 仁史…94

〔そ の 他〕

木うら木おもて96

第20回木材乾燥士資格検定試験問題98

編集後記102

家具デザイナー列伝 (3)

森 仁史*

(3) 木檜恕一 (1881~1943年)



写真1 ニューヨークの木檜恕一 (1921年)

木檜恕一(写真1)は1902年群馬県師範学校を卒業し、教員生活を経てから1908年工業教員養成所建築科を卒業した。建築家を志していたところ、思いがけず手島精一校長から雑木利用の研究を勧められ、滋賀重列教授にも相談しこの道に進むことに決めた。手島は新築なった東宮御所に木檜を案内して、そこにあるような家具の国産化を託した。こうした木檜の経歴が、その後の彼の活動分野を大きく左右していくことになった。それは分野としては木材工業の近代化であり、そこからさらに新しい時代を切り開く家具デザインやその理念の啓蒙、推進という社会的使命を果たすことであった。明治末の日本では洋家具の用材加工、組み手などの製作法、さらにデザインへの知識経験は未だ乏しかったのだ。このため木檜は、洋家具のパイオニアとして生涯に18タイトルもの専門書を次々と公刊し、しかも斯界の指導者として精力的に全国を駆け巡り熱弁をふるい続け、その指導力は家具業界に大きな足跡を残した。

木檜は徳島、桐生の工業学校を経て、1917年東

京府立工芸学校教諭に就任した。着任2年後、家具製作科を木材工芸科に組織替えし、新しい時代の生活スタイルに対応すべきインテリア製作全般を教育することに熱意を燃やした。1918年、森谷延雄 (Vol.60, No.2 参照) ら東京高等工業学校卒業生の家具関係者が新しい家具づくりのために団体結成を目論んだとき、木檜に相談が持ちかけられ、翌年檜葉会が結成されると会長に就任した。同会は機関誌『木工と装飾』(後『木材工芸』と改題 ~1934年 写真2)を創刊し、ようやく日本でも大衆レベルに浸透し始めた洋風生活を支える家具製作に、新たな情報や提案を投げかけていった。この頃までの木檜の著作は手島の要請に応えるかのように、実地的な家具製作指導書(『雑木利用最新家具製作法』上、下 (1914年) 16年、『室内装飾家具製作図』2冊 (1915年) (写真3)、『木材の加工及仕上』(1920年))など多い。

1920年1月、文部省の指揮下に生活改善同盟会が発足し、木檜は住宅改善調査委員会(佐野利器委員長)委員を委嘱される。ここで木檜は、今後の日本の生活様式をどう改革していくべきかについて積極的に提案している。椅子式の生活への移行の提案である。それはまずこどもから始めるべきであり、やがてその成長とともに新しい生活、



写真2 『木材工芸』第74・75号 (1925年)

* 松戸市教育委員会

DESIGN

家具が定着していくであろうと構想した。翌年4月、新設される東京高等工芸学校木材工芸科教授に任命され、欧米視察に出発する。木檜は多くの同僚とは反対にアメリカからヨーロッパに渡った。彼は木工工場だけでなく、アメリカ西海岸、レッチワース、ツェーレンドルフと郊外住宅を精力的に見て回った。それは「家具の研究は住宅と一番に多く関係し、住宅は「ストリート」と関係し、「ストリート」は都市の経営と関係する」と考えたからであった。つまり、木檜の家具デザインは都市計画の視点から出発しているのだ。

木檜のもっともよく知られる著作は『我が家を改良して』（1930年）である（写真4）。実際に木檜は自宅を改良したことはないが、震災復興後の都市改造の格好の提案となった。帰国直後の1924年に自邸を設計し、終世ここに住んだ。残念ながら戦災で焼失してしまったが、これこそ木檜の主張を実行した住まいであった。一階南向きのもっとも採光のよい位置にこども室（写真5）を配置し、台所に食堂を隣接させその間にはハッチを設けた。2階には木檜の書斎と応接間があり、広い納戸を設け収納に配慮している。この3間が洋室であとは畳敷きであった。接客空間は玄関から直接2階に導かれ、1階の家族生活の空間とは隔離されている。こうした機能性優位の設計ながら、木檜は無味乾燥に陥らず、こども室の椅子やクローゼットには愛らしいアクセントを付し、夫人室の茶箆筥（写真6）には伝統的スタイルを踏襲しつつ、アール・デコ風な味付けを忍ばせている。

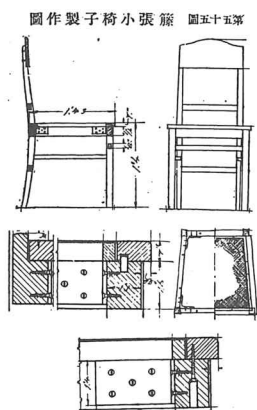


写真3 籐張小椅子（『家具の設計及製作』より）

あるいは、この頃ユニット式家具を提案し、家父長的秩序を覆そうとしている。木檜はこうした合理主義と同時に「贅沢で無い美」をモットーとしていた。彼は東西文化の漸進的な融合を目論み、デザインの上にもその手法がとられるべきだと考えた。その先には「家族全体の幸福」や「真の文化生活」を見据えていたのだ。

木檜が欧米の新しい動向を柔軟に取り込むことのできる十分なデザイン力を備えていたことは間違いないが、実際にはそれに取り組む時間は与えられなかった。戦時の1942年家具統制協会発足とともに会長に選出されたが、翌年急死してしまう。戦後、1949年に木檜をしのぶ人々が7周忌を営み、頌徳碑が建てられた。

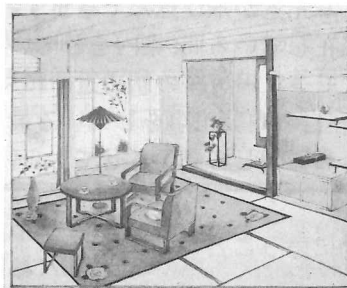


写真4 「在来の八畳間に椅子式の家具を取り入れた居間の一隅」（『我が家を改良して』より）



写真5 木檜邸こども室（1924年）

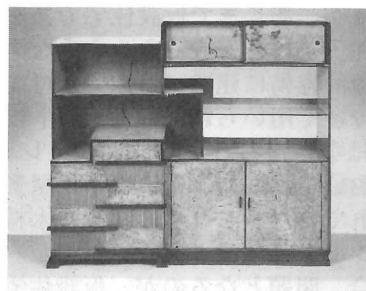


写真6 木檜一《茶箆筥》（1924年）

目 次

〔巻 頭 言〕

- ニーズオリエンテッドとシーズオリエンテッドを求めて森田光博...201

〔総 説〕

木材の多価アルコール系液化とその応用

- 液化木材／エポキシ樹脂の合成とその物性—小林正彦...202

木質廃棄物の有効利用の観点から、多価アルコールを用いて調整した液化木材とエポキシ化合物の反応による新規樹脂を合成し、その物性、実用性を評価した。また、より木材含有率の高い硬化樹脂の調整を目的として、液化挙動の解析、木材のオゾン前処理法等、種々の検討を行った。

- 現場接着の信頼性と耐久性池上則明...207

建築において、合板、集成材など工場で接着したものは構造用部材として一般化している。しかし、建築現場での接着で構造用として認められている例は少ない。現場構造接着がさらに認知されるためには工場と現場の違い、即ち接着条件の違いによる信頼性の差を埋めていく必要がある。本稿では枠組壁工法と木質パネル接着工法を例に現場構造接着に必要な性能項目と評価方法について述べる。

〔研 究〕

- 木製遮音壁の防火性能上杉三郎, 安藤恵介, 喜多山繁, 石田英生, 今村浩人, 原田寿郎...212

大分高速道に設置したスギ木製遮音壁と同形の材を旧西ドイツの燃焼試験法に準拠した試験で性能評価を行った。火災安全性の評価では、裏面への燃え抜けの無いこと、炭化速度は大きくないこと、火炎残存時間が短いことなどから火災拡大の火源となる危険性や延焼を助長することが無いと確認できた。

- スギ 3 層クロスパネルの反りに及ぼす温湿度の影響川上敬介, 古川郁夫...218

〔内外情報〕

- マレーシアのサバ州における木質バイオマスの利用状況久保山裕史, 田中良平, 陣川雅樹...224

- 第二次木質パネル屋外暴露プロジェクト高麗秀昭, 関野 登...229

- 平成17年度林野庁木材関連予算の概要について林野庁木材課...233

〔連 載〕

- 内外樹木のいろいろ (151) レンガス属の樹木 (その 4)平井信二...237

- 木造建築の未来 (6) 木造住宅の耐震改修技術の現状と課題五十田 博...241

- デザイン 家具デザイナー列伝 (3)森 仁史...244

〔そ の 他〕

- 木うら木おもて246

- 編集後記248

家具デザイナー列伝 (4)

森 仁史*

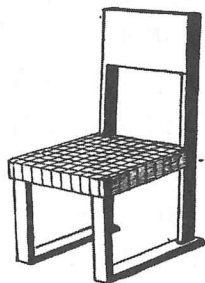
(4) ブルーノ・タウト (1880～1937年)

タウト (写真1) を家具デザイナーとして取りあげることをいぶかしく思われる方が多いかもしれない。確かに、タウトは自身も認める建築家であり、また滞日中には殆ど建築作品を手掛けることがなくて、「建築家の休暇」を過ごしてしまったので、自らデザインした室内空間が日本人に影響を及ぼしたとは言えない。しかし、1933年11月～1934年3月の商工省工芸指導所 (1928年開設) で行ったデザイン指導は短かったとはいえ、その方法と志向において以後の日本の家具デザインにとって決定的ともいえる影響を与えた。

工芸指導所は産業工芸から伝統技法にわたる工芸品の科学的改良と輸出振興の二つを主要な課題としていた。タウトの指導は第一に規範原型と名づけられた標準化への組織的な取り組みであり、第二にデザインを発想する思想的根拠への啓発であった。前者について言えば、すでにディクマンの著作などから合理的な家具構成や機能主義的なデザイン手法を知って、工芸指導所内にもそれを自らのものとしようとする意欲が生まれていた。また、指導所と同じ年 (1928年) に東京高等工芸



写真1 B. タウト
(蔵田周忠『ブルーノ・タウト』相模書房 1942年より)



型而工居標準型 2号
写真2 《標準家具》

学校の蔵田周忠^{ちかただ}とその教え子たちは型而工房を結成し、機能主義デザインの実験を始めていた。かれらも標準家具と名づけた一連の家具を発表し、日本家屋での使用に適した椅子 (写真2) や居住者のアンケート調査から合理的収納を割り出した箆笥^{けいしこうぼう}を提案した。ドイツ工作連盟の試みに倣って、型而工房が日本で最初に機能主義デザインの実践に踏み出したのだった。これらはインターナショナル建築と同じように、世界に普遍的な理想を実現しようという志向に基づき、その日本における合理的解答を模索していたのだった。こうした研究は指導所にとっては科学的改良に属する課題であり、タウトの指導はこれを大きく前進させた。

さらに、タウトはデザインするプロセスの厳しさを付け加えることを忘れなかった。完成までに20回の試作を経たうえで厳しい審査を受け、規範原型のモデル (写真3) として仕上げるよう求めた。この審査の基準として美的な感覚を第一とした。これによって指導所のデザインはそれまでの技能的完成から良質生産、使う工芸を目指す方向へと大きく転換した。しかし、耐久試験があまりに過酷だったため、後に移住した高崎でもタウトのデザインした椅子は殆ど残らなかったという。住まいとした洗心亭で使った椅子はきっとそうした^{ふるい}篩を経たものだったのに違いない (写真4)。

収納家具については指導所でも早くから組合せ家具と称してユニット式家具に着目し、生活形態の変化に対応できる基本形を模索していて、それはタウトが去った後も規範原型家具の研究に受け継がれた (写真5)。また、同時に事務家具についても同様な規範が検討された。これらの実験は戦争によって継続が難しくなったものの、統制の進行は資源節約の観点からこうした機能主義デザインの研究を推進させることになった。規範原型

* 松戸市社会教育課

DESIGN



写真3 《椅子の規範原型 タイプC1》



写真5 《規範原型 写真整理棚》



写真6 《食器棚》
(1942年)



タウトの家と著者

写真4 少林寺洗心亭（浦野芳雄『ブルーノ・タウトの回想』長崎書店 1940年より）

に始まる機能主義デザインの研究開発は戦時中も国民家具（写真6）と形を変えて続行され、むしろ戦時においてようやく輸出振興を凌ぐ主要課題となったのだった。こうしてデザイン活動が存続するについてはタウトの遺産に大きく与っていたのだ。

第二の教えについて、官民ともにデザイン改良の方針として明治以来続けてきた先進的な西欧を手本として見習うという流儀をタウトは真っ向から否定した。彼は日本には優れた造形力とそれを表現する技術が伝えられているのだから、むしろ日本独自の技術的伝統や感覚的な個性を強く発揮することで世界市場に進出する可能性があるのだ

と指摘した。従って、先端的で新しいからという理由で模倣するのを止め着実に独自性を模索することこそが目標となった。それには伝統を今日的な感覚で見分け選択し、現代に生かす厳しい眼が必要になってくる。見習うのではなく、創造するデザインが求められたのだが、日本のデザイナーにとっては未体験の領域だった。であれば、そうした発意が形になるまでには多くの試行錯誤と遠い道のりが必要になるだろう。1930年代の日本でこれをにわかに求められても、思考と技術がそこまでは至っていなかったと言わなければならない。

こうした影響とその成果は指導する側が優れていれば実るものでもない。影響とは求めるものの必要を満たし、伸ばすことであり、受け入れる側の時と環境が揃っていなければ有効に働かない。デザインの何たるかに目覚めた日本のデザイナーにとって、合理的な形態を追究しながら、その追究においてエモーショナルな感覚をみなぎらせるタウトであったればこそ機能主義への没入に深さと必然性を感じとることができたのだろう。この手法を手ほどきされた家具デザイナーはユニヴァーサル（普遍）でありながらヴァナキュラー（独自）である領域に向かうことを目標として見据えることができたはずだ。その実感が製品として実を結ぶようになるのはタウト離日から50年あまりを経た戦後を待たねばならなかった。

目 次

〔巻 頭 言〕

- 悪貨の駆逐にお力を岡野 健...249

〔総 説〕

- リグニン炭素繊維研究の現状と今後.....久保智史, John F. KADLA, 浦木康光...250

エネルギー及び環境問題との関連から、安価で強度特性に優れた炭素繊維が求められている。リグニンはその存在量と価格面から、炭素繊維の前駆体としての利用が検討されている。リグニンを炭素繊維の前駆体を利用する研究は古くから行われているが、本報では最近開発された比較的新しい技術を紹介する。

- 木製福祉用具について増澤高志...256

近年の高齢者、障害者に対する福祉用具へのニーズはますます多様化する傾向にある。筆者が主宰する生活工房が、需用者の使用環境に合わせて制作した木製の福祉用具のいくつかを紹介する。木製の福祉用具については、「暖かみがある」、「触り心地がよい」など、多くの人々からプラスの評価を得ている。

〔研 究〕

- スギ心持ち柱乾燥材の品質に対する高温低湿前処理時間の影響片桐幸彦, 藤本登留, 村瀬安英...262

高温低湿前処理時間の長さがスギ心持ち柱乾燥材の材質に及ぼす影響について検討した。その結果、短時間処理（18時間）に比べて長時間処理（48時間）では、①表面割れ抑制効果が増したが、内部割れの発生割合も増加した。②乾燥材内の水分傾斜が大きくなった。③ヤング係数が増加し、破壊までの仕事量が減少する傾向がうかがえた。また、④表面割れ抑制効果を挙げるためには、ある一定範囲内の含水率状態の材を処理した方が効果的である可能性を見出した。

- スギプレーナー屑を原料としたコンクリート化粧型枠ボードの試作上村公浩...267

スギプレーナー屑を原料としたコンクリート化粧型枠ボードを試作し、コンクリート表面に発生する硬化不良の改善方法について検討を行った。その結果、甚大な硬化不良の原因となるボードへの混練水の吸収を抑制するには、軟膏状の油や樹脂を下塗りした後に離型剤を塗布するなどの方法が有効であることが分かった。

〔内外情報〕

- 第4回RCCWS国際会議（木材の組織、特性および材質2004）に参加して大谷 忠...271

- 第7回環太平洋生物複合材料シンポジウム（The 7th Pacific Rim Bio-Based Composites Symposium）に参加して梅村研二...273

- 鳥取県木材工業研究会設立40周年記念講演会の概要川上敬介, 北村直也...277

〔連 載〕

- 内外樹木のいろいろ（152）イボモノノキ属の樹木.....平井信二...281

- 木造建築の未来（7）木造住宅の長寿命化のためのスケルトン・インフィル住宅板垣直行...287

- デザイン 家具デザイナー列伝（4）森 仁史...290

〔そ の 他〕

- 木うら木おもて292

- 編集後記294

家具デザイナー列伝 (5)

森 仁史*

(5) 梶田 恵 (1890～1948年)

梶田恵 (写真1) はこれまでに取り上げてきたデザイナーとは異なり、やや美術工芸に近い位置にある作家である。それは彼のつくる家具が特定の建物や展覧会出品を念頭に置いた一品製作であるからだ。



写真1 梶田 恵

梶田は1908年に一関中学から東京美術学校図案科に入学し、西洋画科の岡田三郎助の書生として居候したことがあるようだ。しかし、美術学校図書の紛失事件の嫌疑を掛けられたことから、1912年美術学校を退学してしまう。

岡田は小山内薫の妹と結婚していて、自由劇場第1回公演から舞台背景を描くなどして関わっていたためか、梶田も自由劇場第7回公演「どん底」(1913年)、第8回公演「星の世界へ」(1914年)に家具や窓枠などの小道具製作で参加し、この頃にはすでに芝の寺尾欄商店ひろしと関係があったようである。また、自由劇場主催劇場舞台展に舞台模型などを出品している。弘前で兵役に服した後、16年に寺尾商店に入社し家具デザインを担当することになった。1919年に独立し、同じ芝の南佐久間町に梶田スタジオを構え、宮沢製作所の顧問と

なり、川島理一郎の設計した資生堂パーラーの家具や店内装飾などを製作、設計した。

これが機縁となり、資生堂社長福原信三の手によって翌年農商務省展に「椅子使用ノ日本室向姿見兼用装飾鏡台」「同附属椅子」(資生堂案、梶田作)が出品され、褒状を受賞した。これ以後も1921年「鏡台」ほか(写真2)、1922年「書斎家具」と福原が出品者となり、後者は二等賞を得た。また、美術学校図案科で1907年から建築史を講じた岡田信一郎(1923年～建築科教授)に知遇を得て、1924年岡田の友人鳩山一郎邸をはじめとする岡田の建築設計とのコラボレーションで手腕を発揮してゆく。岡田は海外体験はなかったが西欧の様式建築に精通し、彼の代表作といえる建物での家具製作はその規模と内容からいって梶田にとっても代表的な仕事となっている。日本で最初の公設美術館となった「東京府美術館」(1926年)では、天皇来臨用の便殿の家具を担当し、岡田の遺作であり、日本における洋式建築の完成とそこからの訣別を宣言した「明治生命保険本社」(1934年)では、どの家具も重厚で、手の込んだレリーフを多用している(写真3)。そこには梶田が取り組んだ西洋様式家具の研究結果が如実に表れ、そこから編み出された独自の表現に満ち満ちている。

梶田は1922年頃から電鑄による装飾技法を研究し始め、1924年の農商務省展に出品した「紫檀材婦人用机」で本格的に作品に採用した。これは二等賞を得て農商務省に買い上げられ、翌年パリで開かれたアール・デコ展に出品され、グランプリに次ぐ名誉賞を獲得している(写真4)。本場においても梶田の手腕は高く評価されたのだった。この頃の家具図面が東京藝術大学大学美術館に保存されているが、すべて図面は和紙にインクで手書きされ、殆どが原寸図である(写真5)。梶田

* 松戸市社会教育課

DESIGN

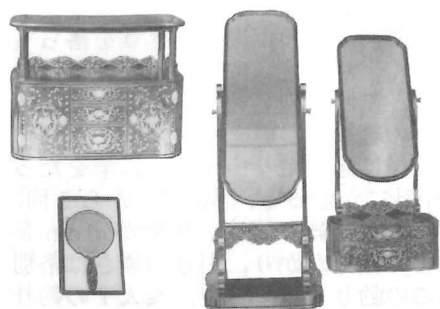


写真2 「鏡台」ほか
(1921年 農商務省展)



写真3 「方形卓子」「肱掛椅子」
(1934年 明治生命)



写真4 「紫檀材婦人用机」
(1924年 農商務省展)

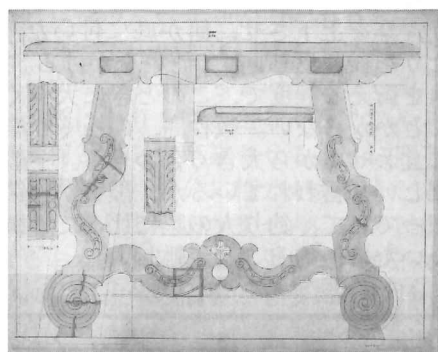


写真5 明治生命家具図面



写真6 「飾り台」 (1938年 工精会展)

の家具は表面のレリーフや木目込み細工による濃密な装飾を特徴としているが、これらがすべて細大漏らさず手書きされている図面は作者が家具のどこに心血を注いでいたかを雄弁に物語っている。図面は残っていること自体が珍しいが、見た範囲では組み手や構造に関する図面が見当たらなかったのは梶田らしいというべきかも知れない。実際に製作現場にも頻繁に足を運び職人と試行錯誤するのは惜しまなかった梶田だが、重要なのは仕上がった状態の家具が見せる姿、形であったのだろう。

1927年商工展で「応接用家具セット」は無鑑査出品となり再び二等賞を受賞した。また、帝展に1929年から第四部美術工芸が設けられると、30年からここにも出品し連続入選する。しかし、こうした家具制作だけでは生計が成り立たず、1932年から服部時計店との取引を始め手箱や小筆筒などの工芸品制作に移行していく。1935年には林二郎、

渡辺明と工精会を結成する。途中から河井寛次郎も参加した。一品製作の美術工芸の延長線上に家具デザインの可能性を探ろうとするもので、東京と大阪高島屋で催された頒布会はかなり成功した(写真6)。林はやはり美校日本画科に学び、木彫に転じペザントアート家具製作を貫いた。1946年、ペリアンは林に展覧会に出品する家具の製作を依頼した。

1941年に星野克斉、木内省古、前田南斉、須田桑月らと東京木工芸作家協会を結成し、展覧会を催した。1943年には帝展に「松竹梅紋笥」を出品し特選を得たが、戦火が激しくなりこの年一関に疎開し、同地の一関木工で木製飛行機や仮設応急住宅の製作に従事した。戦後はここが一関市立授産所となり、その技術顧問となった。1947年に授産所展を開催し、厚生大臣賞を受賞している。戦後も家具製作への復帰を希望しながら、ついに果たせぬまま同地に没した。

目 次

〔巻 頭 言〕

木をみて森も見る 今村祐嗣...477

〔総 説〕

タンニン高含有アカシア樹皮粉末の製造と接着剤への応用

..... 矢野浩之, 小川荘介, 川井秀一, 稲井淳文, 本馬洋子, 山内秀文, 那須英雄, 山崎道人, 矢田元一...478

縮合型タンニンを高濃度で含有するアカシヤマンギウム樹皮粉末について, 接着剤原料としての特性, フェノール樹脂接着剤への添加による硬化促進効果を紹介する。

電気的手法による木材中の水分量評価 鈴木養樹...483

乾燥の効率化につながる原木段階での選別技術として水分検出とその含有量の評価がある。丸太などの原木における非破壊的水分量検出技術について中性子線・マイクロ波など電磁気的な手法を用いた研究を紹介し, 解説した。特に, 電気的手法を適用した丸太樹幹内の水分分布推定技術について測定例を用いて詳細に説明した。

〔研 究〕

普通合板および特殊合板から放散されるアルデヒド類と VOC の測定 宮本康太, 塔村真一郎, 井上明生...489

室内空気質問題に関連して, 木質材料からの化学物質放散について, 放散量, 種類および経時変化を評価することが重要となっている。本研究では, 数種類の市販の普通合板と特殊合板から放散されるアルデヒド類, VOC を JIS 小形チャンバー法を用いて測定した。VOC について, 普通合板からは木材由来成分が, 特殊合板からは表面塗装由来の成分の放散がみられた。また特徴的な化学物質について, 放散速度の経時変化を評価した。

〔資 料〕

宮崎県産スギ柱材の乾燥特性に関わる材質指標 小田久人, 蛭原啓文, 迫田忠芳, 藤本登留, 村瀬安英...495

宮崎県産スギ柱材の生材時の重量, 含水率, 容積密度数, 横断面内含水率分布などについて検討した。無欠点小試験体の容積密度数は柱材の全乾重量との間に高い相関関係が認められ, 全乾重量は容積密度数の大小を示しているものと考えられる。また, 生材重量は含有水分量の差異に起因しており, 密度すなわち全乾重量による差異は小さい。生材含水率分布は, 元口側は末口側より外層と中間層の値が高いことが明らかになった。

〔内外情報〕

スギ材の産地として~10年後のトレンドは無垢材?~ 伊藤彦紀, 佐々木勝彦...500

「地球温暖化防止と木材利用」に関する学習用アニメーション 永富一之...503

2005年日本木材学会生物劣化研究会に参加して 松永浩史...507

〔連 載〕

内外樹木のいろいろ (155) フサマメノキ属の樹木 (その3) 平井信二...511

木造建築の未来 (10) 免震構造を適用した伝統木造建築 開放的な見えがかりと耐震性の共存 田垣欣也...515

デザイン 家具デザイナー列伝 (5) 森 仁史...518

〔そ の 他〕

木うら木おもて 520

編集後記 522

家具デザイナー列伝 (6)

森 仁史*

最終回は剣持勇（1912-1971年）で締めくくりたい。戦後家具デザインで活躍したデザイナーは数多くいるが、その個性が日本デザインのあり方の根幹に関わろうとする姿勢で一貫していたという点で剣持ほどの水準と方向を維持し続けられたデザイナーは数少ないように思う。しかし、彼の生涯を振り返るとその巡り合わせに改めて感じる。まず、1933年のタウトとの出会いだ。1932年に東京高等工芸学校の木材工芸科を卒業し商工省工芸指導所に入った翌年、タウトの助手の一人を命じられ、主に椅子の標準化に取り組む。タウトから学んだのは機能主義の実践だけでなく、現代デザイナーの伝統に対する接し方、デザイン作品を仕上げるプロセスの厳しさなど、その後の剣持がデザインに取り組む姿勢に絶大な影響を与えた。まさに剣持にとっては唯一無上の「先生」だった。都会育ちだった剣持にとってタウトと歩いた東北の民家、寺社、工房は創造への重要な源泉となった。この規範原型の研究は必ずしも工芸指導所で主流という位置づけではなかったが、戦時になったことで国民家具の研究試作として継続することができた（写真1）。同時に剣持は、指導所が軍事技術の開発研究によって生き残るための実験にも積極的に従事した。軍人の家庭に育った

剣持は、この時代の技術者らしく国家への奉仕を厭わなかった。

戦後知り合った画家猪熊弦一郎から1950年にイサム・ノグチの制作援助を依頼され、指導所をアトリエとして提供する。第二の出会いである。谷口吉郎設計の慶応義塾大学校舎内の新万来舎のための作品制作だった。ノグチはすでに日本でもハーマン・ミラー社のデザイナーとしても知られていたが、剣持とは編んだ竹の椅子（写真2）で共同作業をすることになった。かねてから剣持たちが取り組んだ技法をノグチがどう解決するか、またそうした技法材質に取り組むことの同時代的な意義をしっかりと学ぶことができた。ノグチを通じて、そうしたテーマの意味を共有することのできたG.ネルソン、C. イームズ、G. ナカシマなどを紹介された。その直後、1952年に渡米の機会を掴んだ。まだ渡航制限のあった時代に、4～10月という通産技官としては異例の長期の出張が可能になったことは、剣持にとっても指導所にとってもきわめて大きな意義があった。ノグチから広がったチャンネルを通じて、実際の製造現場とその水準傾向を見ることができた。まだ日米の製造技術に圧倒的な格差があった時代にこれは貴重な体験だった。また、各地で実際に多くのデザイナーと直に意見交換することができた。そしてもっとも



写真1 剣持 勇



写真2 国民家具（衣類簞笥）

* 松戸市社会教育課

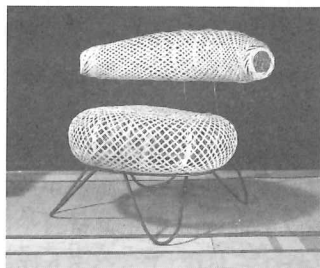


写真3 編竹椅子



写真4 デザインと技術展 (1954年)



写真5 香川県庁県議会議長室



写真6 丸椅子C-315-S (ニューヨーク近代美術館20世紀デザイン選定)

大きな収穫は、かつてタウトから示唆された日本の伝統の優れた部分は世界に通用することを、アメリカ市場を実際に眼にすることによって実感できたことである。

帰国後、剣持はそれを「ジャパニーズ・モダン」と名づけて、1953年から産業工芸試験所で試作を開始した(写真3)。彼はそれを戦後デザインが進むべき最良最大の選択だと考えた。吉阪隆正からジャポニカという批判が投げつけられたが屈しなかった。デザイン界がマーケティングからスタイリングを決定するアメリカの流儀に我勝ちに後追いしようとしたとき、この姿勢は孤高の歩みを強いられたし、それに応える製造技術の成熟を待たなくてはならなかった。しかし、戦後文化が再び欧米の垂流に陥り、二流に甘んじようとする趨勢のなかで、日本固有の表現を造形によって世界に向けて主張することは、人々に自信と向かうべき方向を与えた。

そして1958年、香川県庁のインテリア設計(写真4)で丹下健三と出会う。1955年に剣持は独立してデザイン事務所を構えたが、これは最初の大プロジェクトただけでなく、戦後日本建築がモダニズム技法にのっとなって日本的個性を宣言し

た建物であった。以後、丹下とは熱海ガーデン・ホテル(1961)、国立屋内競技場(1964)、香川県体育館・聖マリア会堂(1965)、山梨文化会館(1966)と共労作業が続いた。剣持の仕事のなかで空間処理の志向は試験所時代のシアトル国際見本市・H55展(1955)以来であるが、この分野の仕事に松本哲夫という建築出身のパートナーを得たことも大きな出会いであり、ここに挙げた系列のデザイン活動に欠かせない存在となった。同時に、室内の雰囲気を引き立たせる篠田桃紅や猪熊源一郎などを早くに見出したのは、さすがに先見の明といえよう。

振り返れば、剣持デザインの主調はこの1950年代におおよそその輪郭が形づくられていることに気づかされる。丸椅子(1960)(写真5)や柏戸椅子(1961)は作品として今も強いインパクトを感じさせるが、いずれも1960年代のごく初期に完成されたかたちを提出している。惜まれるのは、その早過ぎる死によって建築空間全体をコーディネートする手腕と立場をその後は誰も埋めることができなかったことであり、日本デザインの進展にとって大きな損失になったことである。

目 次

〔巻 頭 言〕

- 問われる公設研究機関の役割 渡辺和夫...619

〔総 説〕

- 高温水蒸気中における木材特性のリアルタイム測定 久保島吉貴...620

近年のセンサの発達に伴い、従来困難であった高温条件での測定が行われつつある。高温高湿条件を活用した木材乾燥を念頭において、乾燥材の性能に影響する物性を乾燥過程でリアルタイム測定することがどこまで可能になってきているか紹介する。

- 音弾性法を利用した木材の非破壊応力測定 長谷川益己...625

近年、木質構造物の部材の構造安全性を非破壊的に評価する方法の開発が期待されている。その一つの方法として、超音波を利用した音弾性法が挙げられる。音弾性法は、応力による伝播速度の変化を測定することで、材料内部の応力状態を非破壊的に推定できる簡便な応力測定法である。本総説では、音弾性法の基礎となる木材の音弾性現象と、応用例として木材の音弾性応力測定の実験の2つの内容を中心に紹介する。

〔研 究〕

- T型断面をもつ試験体の4点曲げ試験による木材の引張特性の評価 吉原 浩, 田中謙吾...631

T型断面をもつように加工したトドマツの突き出た部分に引張応力が発生するように4点曲げ試験し、得られた応力-ひずみ関係から引張特性の評価を試みた。

- スギ材を用いた直交型3層積層材の曲げクリープ性能に及ぼす表・中層ラミナの構成割合の影響

..... 朴 漢玟, 伏谷賢美...636

スギ材を用いて直交型3層積層材を作製し、中層ラミナの厚さ割合が曲げクリープ性能に及ぼす影響を検討した。中層ラミナの厚さ割合の増加に伴い、曲げクリープ性能は顕著に変化し、その変化の度合いは初期変形よりもクリープ変形の方が大きかった。曲げクリープ性能が繊維直角方向ラミナの年輪傾角によって異なった。中層ラミナの厚さ割合を変えることによって、直交型積層材の異方性を広範囲にコントロールできることがわかった。

〔内外情報〕

- 携帯型立木ヤング率測定器の開発 池田潔彦, 砂田正史, 川中道夫, 小玉晶彦...642

- 建築材料関連図書における木材関連事項の誤りについて 林 知行...646

〔連 載〕

- 内外樹木のいろいろ (156) コウエンボク属の樹木 (その1) 平井信二...650

- 木造建築の未来 (11) 木質構造の教育を考える 高橋茂男...653

- デザイン 家具デザイナー列伝 (6) 森 仁史...656

〔そ の 他〕

- 木うら木おもて 658

- 第41回木材接着士資格検定試験問題 660

- 編集後記 662